

第 101 回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2026 年 2 月 18 日(水曜日) 21:00–22:00 オンライン会議

2 参加者(以降、敬称略)

(地学)相川、阿部、市川、飯田和也、小林、田口、富樫、根本、宮嶋

(地理)高橋、中山

3 協議

(1)教科書分析について

- ・相川委員、飯田委員より教科書分析について執筆者に対する出版社から制約や、分析の複雑さと精度の問題に相違があるとの意見があり、その他の委員からも、用語などにこだわり始めるとなかなか進まないことなど以前の経験が共有された。
- ・協議の中で根本委員より教科書ではなく学習指導要領の見直しを中心に据えてどうかという提案がなされた。高校ではおおよそ半数以下になってしまう地学基礎の履修者に対して、中学校の地学の内容や範囲は妥当なのか、あるいは足りないものは何かを教科書を用いながら指導要領について検討することが提案され、方向性として概ね賛同された。
- ・また、今進んでいる学習指導要領改訂の流れを受け、大学でも教員養成のための履修単位が減ることが情報提供され、将来、地学を扱える教師を育てるために大学でどのような教育がされるか、といった視点をもった活動が望まれるという意見があった。

(2)地学教育関係者情報交換会の検討

- ・飯田委員と相川委員から資料をもとに「中高地学教育関係者情報交換会 2026」の主にグループワークについて説明があった。
- ・グループワーク 1 は「地学分野で学ばせたい内容についてのこだわり」を共有することを目的とし、参加者が個別にワークシートを完成させ、学習指導要領に沿った内容や個人の意見を議論することで概ね了承された。
- ・グループワーク 2 は「おすすめの実験・実習等についての情報共有」を行う予定であることが説明された。特にグループワーク 2 の実験・実習の実施の流れについては質疑と意見があり、最終的には参加者の状況を見て柔軟に対応することとなった。

事務関連

- ・宮嶋委員より旅費については都外からの参加者には旅費が支給される予定なので、旅費申請書を提出するよう連絡があった。

(3) その他

- ・中山委員より、本日の議論を受け今回の学習指導要領の改訂に関しては今でも意見を言えば、間に合う可能性もあることが情報提供され、例えば地学教育における防災教育の重要性を強調するような、学習指導要領への提案をしてはいかがかという、コメントがあった。ピンポイント(例えば1つの項目だけでも)であっても、意見を出しておくことで反映される項目があるかもしれないとのこと。
- ・宮嶋委員より 3月8日に予定されている交流会と5月の教育検討委員会について、委員はまずは3月8日に向けて活動を行い、終わり次第、5月に向けて何を行うか考えていく。5月の教育検討委員会の残りの時間は3時間の程度の時間枠があることを確認し、何を行うかアイデアを練ること、また、懇親会の計画についても言及した。

4 次回小委員会

3月8日の「中高地学教育関係者情報交換会2026」以降に検討する。